

一次産業に関する取り組み

2025年6月
株式会社奥村組



OKUMURA CORPORATION

農業参入の背景と目的（大きな社会課題）

①食料安全保障

経済大国としての立ち位置や競争性の喪失

→我が国の「飽食の時代」は終焉し、各との食料争奪戦へ

②高齢化/少子化に伴う生産人口の漸減/地方荒廃

地方消滅
慢性的な人不足

高い経済成長が望めない中、社会の成熟による人口減少が顕著

→地域経済の崩壊(過疎化)や担い手不足による社会的課題の顕在化

「食」にまつわる周辺環境の悪化が顕著であり、今後の価格高騰局面に対し新ビジネスとして成立するという、企業としての成長戦略のひとつに。

農業分野の課題解決を通じて地方創生へ貢献
～持続的な成長に向けた事業領域の拡大(2030年に向けたビジョン)～



OKUMURA CORPORATION¹

事例：夏秋いちご栽培・販売事業



▲農園の様子



▲ビニールハウス内の様子

2020年1月～

長野県軽井沢町にて地元企業の小諸倉庫株式会社と共に
（株）軽井沢いちご工房を設立、夏秋いちごの栽培・出荷・販売事業を開始

いちごは暑さに弱く、冬春期に収穫・出荷が集中し、夏秋期には輸入品や冷凍品が多く流通していますが、洋菓子店・ホテル中心に夏秋期にも冬春いちごと遜色ない新鮮な国産いちごのニーズがあります。

このニーズに応えるため、夏秋期でも冬春いちごに引けを取らない品質をもつ、希少な夏秋いちごを栽培しています。

夏秋いちごの中でも、軽井沢いちご工房で栽培しているオリジナルブランド「サマールージュ」は、浅間山の麓、冷涼な気候のもとで丹精込めて育て上げており、気品高い香り・甘みと酸味の上品なバランスが好評、ホテルやケーキ店などで引き合いをいただいているます。



OKUMURA CORPORATION²

栽培品種のご紹介（長野県由来の品種）



信州大学開発の「信大BS8-9」

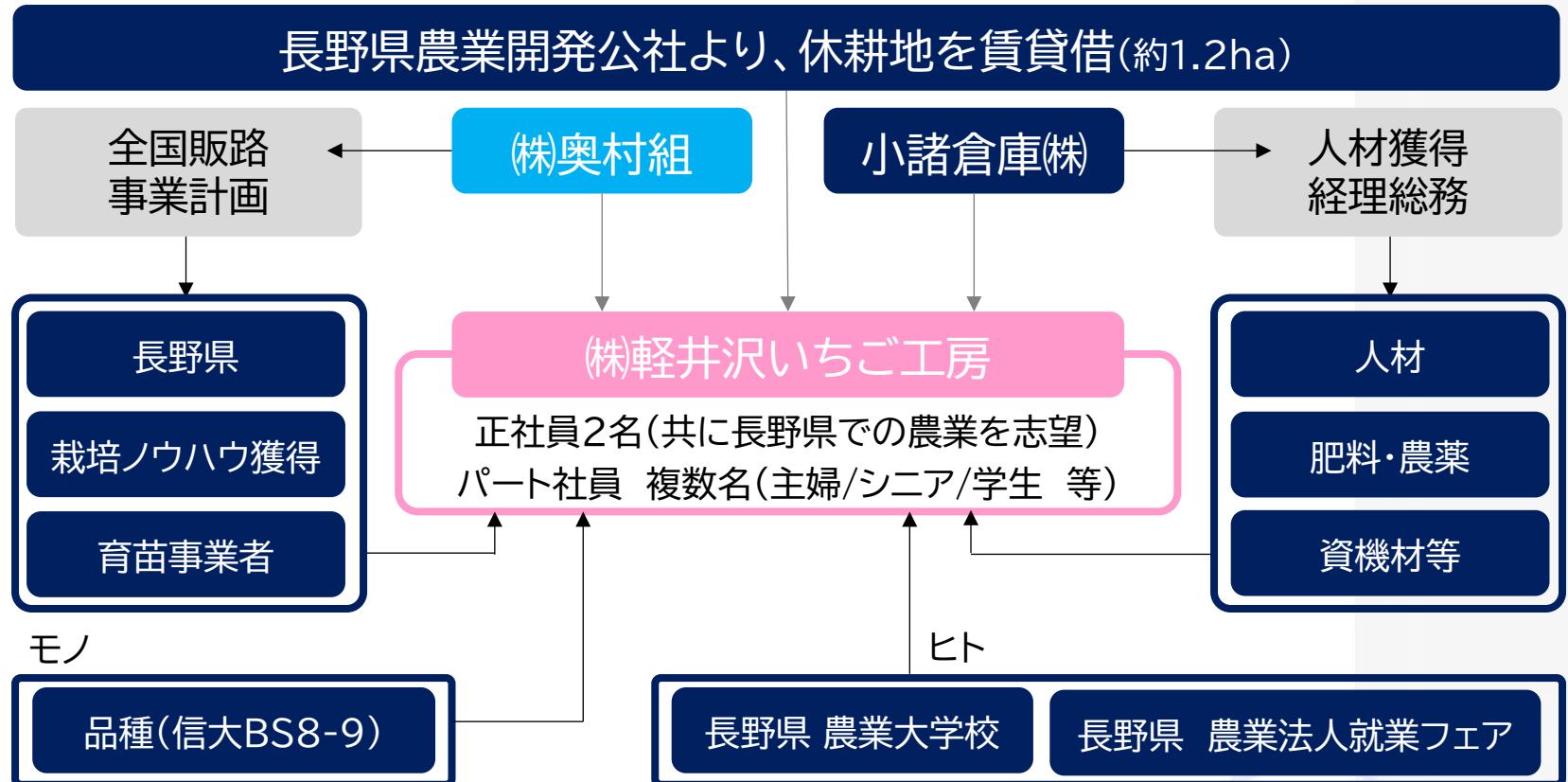
サマールージュ(信大BS8-9)

- 信州大学大井名誉教授が6年の歳月を掛けて開発した四季成いちご。甘さと酸味のバランスに優れ、香りのよい品種。
- 外観が美しく、果実の中まで赤いことが特長。また、果実糖度が高いため食味がよく、需要の多いサイズを収穫できる期間が長い。
- 2011年品種登録。当社は「サマールージュ」として2020年に商標登録済。



地域密着型の農業法人経営 (ヒト・モノ・バシヨを現地調達)

バシヨ



ヒト：栽培収穫シーズンは3～11月。通年雇用で2名と季節雇用で複数名を採用。

モノ：栽培品種は長野県由来の開発品種。資機材も現地にて調達。

バシヨ：長野県農業開発公社(農地中間管理機構)が土地を斡旋。休耕地を確保し賃貸借。

その他 1次産業に関わる開発案件(水産業)

陸上養殖実証実験事業



水産資源枯渇の危機に対し、かけ流しをせず飼育水を循環させる「閉鎖循環式」での陸上養殖技術を研究。

魚介類の価値そのものを高めることを通して、持続可能な水産業の確立を狙う。

バナメイエビ養殖実証実験



ベンチャー企業を含む4社と共同で、国産種苗のバナメイエビを二通りの養殖方式で比較する実証実験を開始。

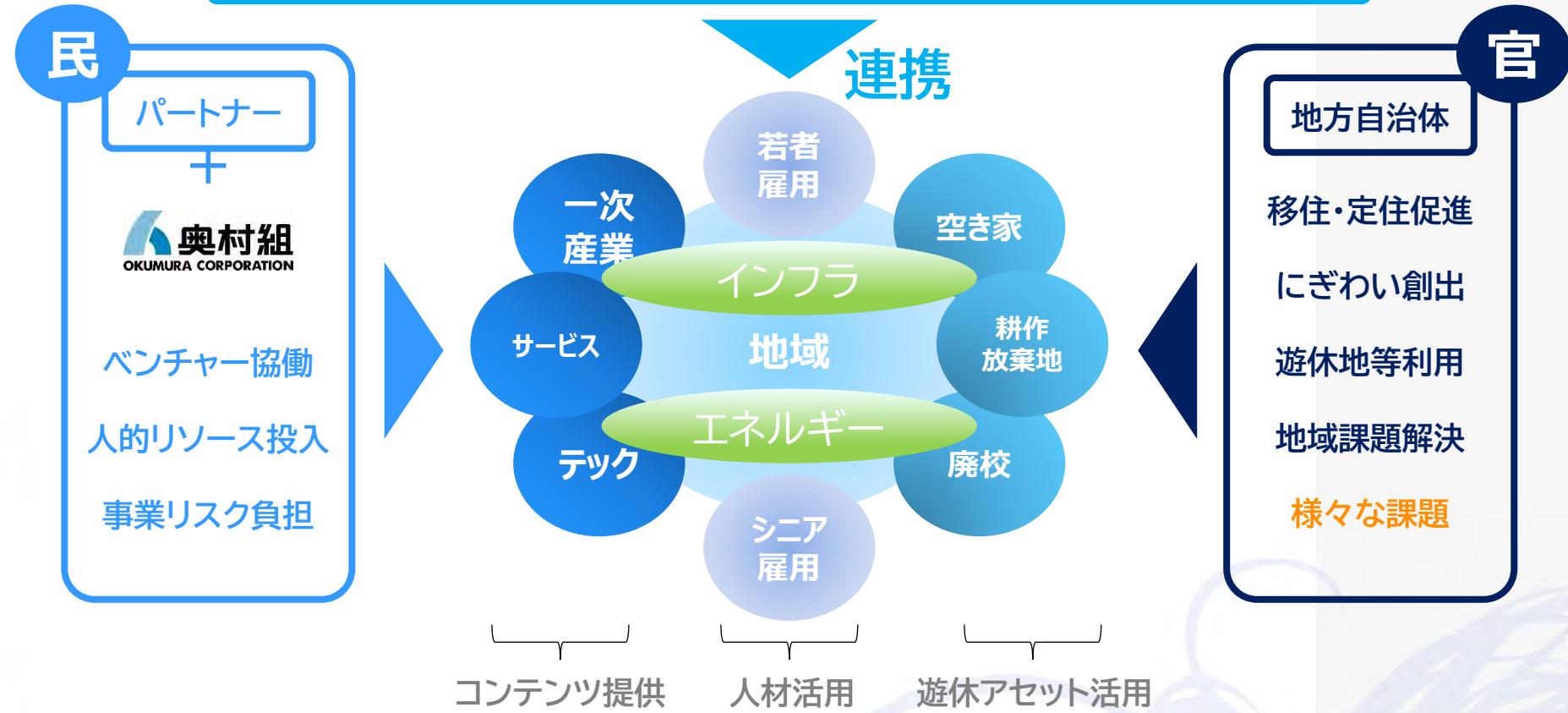
高効率なバナメイエビ養殖における最適パッケージ確立を目指す。



OKUMURA CORPORATION

今後の展開（まずは地方創生を実践！）

スタートアップ企業/地元事業者/金融機関/学術機関 等



地域特性やリソースに合う事業で課題解決しつつ、収益化を目指す。